災害科学センター研究報告の完全版下投稿用

和文原稿作成例

PRINT SAMPLE OF JAPANESE MANUSCRIPT FOR MEMORIES OF THE CENTER FOR EDUCATION AND RESEARCH OF DISASTER SCIENCE

編集委員会1・センター事務局2・Disaster REDUCTION3

Editorial COMMITTEE, Staff OFFICE and Disaster REDUCTION

1システム工学部教授，2和歌山市総合防災課，3AAA University

 (1)災害科学教育研究センター研究報告(通常号)は年1回発行し，災害科学分野についての現況報告，将来展望などを記した「解説」，および災害科学分野および関連分野にかかわる調査・研究や具体的な取組み事例などを記した「報告」を掲載します．(2)投稿資格は，和歌山大学所属の教職員，および災害科学教育研究センターから依頼を受けた者になります．(3)登載の可否は編集委員会で決定します．(5)投稿は，災害科学センター内の編集委員会宛のメールにWORDファイルとPDFファイルを添付して提出してください．(6)掲載料の徴収は行いません．ただし，編集や印刷などに特別な経費が必要となった場合は実費を請求することがあります．(7)研究報告に掲載された個々の著作物の著作権は著者に属し，災害科学センターは編集著作権を有するものとします．また，著者は，研究報告に掲載された個々の著作物について，著作権の行使を災害科学センターに委任することとします．ただし，当該著作権者が自らこれを行うことは妨げません．

***キーワード :*** *キーワード1，キーワード2，キーワード3，キーワード4，キーワード5*

1. ページ設定とページ数

　マージンは左右が20mm，上方が20mm，下方が25mm程度とし，2段組で１段25文字50行を標準とします．段幅は約82mmです．

　ページ総数は，自由投稿原稿の場合は2-8ページとし，超過は認めません．依頼原稿の場合は依頼時にページ数を決定します．

２．タイトルページ

　タイトルページは 2つの部分で構成されます．

1. タイトル部分（題目，著者，所属，アブストラクト，キーワード）：横1段組
2. 本文部分：横2段組

　このほかにヘッダが付きます．なおソフトウェアによっては，タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれることがあります．

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

　タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ1cmずつ大きくとって下さい．したがって，A4用紙の幅に対して左右それぞれ3cmずつのマージンをとります．

　タイトルはA4用紙の上辺に約3cmのマージンを取り，センタリングします．以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい．

和文タイトル：ゴチック体 20pt フォント

英文タイトル：Times New Roman 12pt フォント

　　　（その下に約1.5cmのスペース）

　和文著者名：明朝体 12pt フォント

　英文著者名：Times New Roman 10.5ptフォント

　　　（その下に約5mmのスペース）

　著者所属：明朝体9ptフォント

　　　（その下に約1cmのスペース）

　和文アブストラクト：明朝体9 ptフォント，7～9行

　　　（その下に１行のスペース）

　キーワード：明朝体9ptフォント，3～5語，2行以内

　著者と所属とは肩付き数字で対応づけ，上記のように並べて下さい．***'キーワード'*** という文字はボールドイタリック体にします．

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

　本文とキーワードの間に約1cmのスペースを空けてください．

　本文は2段組で，左右のマージンは2cmずつ，段と段との間のスペースは約6mmとします．下辺のマージンは 24mmです．

　本文には明朝体10ptフォントを用いて下さい．英数字はTimes New Romanを用いてください．

(3) ヘッダとフッタ

　タイトルページのヘッダに論文集の号数と年月（月は論文集が出来上がる3月として下さい）を明朝体9ptで入れます．ページ数については記入しないで下さい．事務局が最終原稿に入れます．

３．一般ページ

　第2ページ以降の通常のページは上辺のマージンを20 mmとします．それ以外はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します．

(1) 脚注および注

　脚注や注はできるだけ避けて下さい．本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい．

４．見出し（見出しが１行以上に長くなるときはこの例のようにインデントして折りかえす

(1) 見出しのレベル

　見出しのレベルは3段階までとします．第1レベルの見出し（章）はゴチック体とし，２．などの数字に続けて書きます．また，見出しの上下にスペースを空けます．このファイルのサンプルから分かるように，上を1行以上，下を1行程度空けて下さい．

(2) 第２レベルの見出し

　第1レベルの見出し（節）もゴチック体で，(4) などの括弧付き数字を付けます．見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい．

a) 第３レベルの見出し

　第3レベルの見出し（項）は，括弧付きアルファベットを付け，上下には特にスペースを空けません．第3レベルより下位の見出しは用いないで下さい．

　なお，各レベルの見出しはページの最終行にこないようにしてください（改行して隣の段落の最初の行にくるようにしてください）．

表-1 表のキャプションは表の上に置く．このように長いときはインデントして折り返す．

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 番号 | 温度(℃) | 湿度(%) |
| 1 | 20.5 | 50.0 |
| 2 | 21.3 | 48.3 |
| 3 | 20.8 | 48.8 |



図-2 図のキャプションは図の下に置く．

５．数式および数学記号

　式や数学記号は次の式 (1)

　　

のように本文と独立している場合でも，*X*, *a*n(*t*)のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します．数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません．

数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにします．

６．図表

(1) 図表の位置

　図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします．原稿末尾にまとめたりしてはいけません．また，図表はそれぞれのページの上部か下部に集めてレイアウトして下さい．図はなるべく拡張メタファイル形式で貼り付けてください．図表の横幅は，「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1や図-2のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします．図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい．図表と文章本体との間には1行程度の空白を空けて区別を明確にします．また，本中分の図表番号のフォントはゴシック体にしてください．

(2) 図表中の文字およびキャプション

　図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください．特にキャプションの大きさ (9pt)より小さくならないようにして下さい．

　長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します．英文キャプションの場合は，見出しをTable 1や Fig.2として下さい．

７．参考文献の引用とリスト

　参考文献は出現順に番号を振り，その引用箇所でこのように1),2)上付き右括弧付き数字で指示します．参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し，脚注にはしないで下さい．WEB上に公開されている記事などを参照する場合も参考文献リストに記載してください．

８．最終ページのレイアウト

　原稿は自由投稿原稿の場合は2-8ページで，超過は認められません．依頼原稿の場合は依頼時にページ数を決定します．また，1段目と2段目の末尾の長さがほぼ揃うように調整して下さい．

　なお，原稿受理日は原稿の締め切り日とし，参考文献リストのあとに1行空けて右詰めで書いて下さい．9ptのゴシック体を使用して下さい．

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい．見出しとコロンをゴシック体で書き，その直後から文章を書き出して下さい．

付録　「付録」の位置

　「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置きます．

参考文献

1. Wakayama, D. C.: Debris flow disasters due to Typhoon No.12 in 2011, *Memories of the Center for Research and Education of Disaster Reduction, Wakayama University*, Vol.1, pp.7-15, 2014.
2. Wakayama, T. and Bosai, J.: *Disaster Reduction*, pp.25-30, ABC Press, 2014.
3. 和歌山太郎，防災次郎：版下原稿スタイルフォーマットの作成について，和歌山大学防災研究教育センター紀要，Vol.1, No.2, pp.1-6，2014．
4. 和歌山大学災害科学教育研究センター編：地域防災学，pp.30-40，ABC出版，2014．
5. 新和歌山大学新聞：報告の書き方，<http://www.wakayama-u.ac.jp/aaa01.html>，2014年6月12日アクセス．

（20\*\*.9.30受付）